

○ヒメイワダレソウを植栽して草刈り軽減に取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県輪島市小池 ^{わじましおいけ}			
協 定 面 積 7.3ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交 付 金 額 147万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (100%)	積立費		56%
		農道の維持管理・補修及び土地改良事業負担金		39%
		役員報酬		5%
協定参加者	農業者15人			開始:平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、市北西部の日本海に面した所に位置し、小区画の棚田が広がっており、農業者の高齢化に伴い農業生産活動を継続できるかが懸念されていた。

そこで、中山間地域等直接支払制度を活用してほ場整備や農道・用排水路の草刈り、清掃・修繕作業を集落一体となって取り組み、平成21年には棚田保全組合を設立して、集落ぐるみのサポート体制を強化している。

3. 取組の内容

担い手への農作業委託を協定に位置づけて実施し、第3期対策からは維持困難な農用地が発生した場合に、集落ぐるみで引き受ける体制としている。

また、本交付金の活用方法として、草刈作業の軽減や斜面の保護を目的として、ヒメイワダレソウを本交付金で購入し、金沢などから訪れた農村ボランティアと共に植栽をして効率的な農地保全と交流による活性化に取り組んでいる。

その他、農業生産活動が円滑に継続されるよう田を耕作しやすい形に整備したり、用水ポンプを設置するなどの生産基盤整備の拡充を行い、さらには棚田米をブランド化し、じゃがいもなどの野菜と一緒に直売所で販売したり、自然生態系を学習する場として、地元小学生と一緒に集落内の生き物調査を行ってビオトープ（野生の生き物のすみか）を作るなど、本交付金を活用して様々な活動を行っている。



【地元小学生との生き物調査】



【ボランティアの方々との植栽作業】

[集落の将来像]

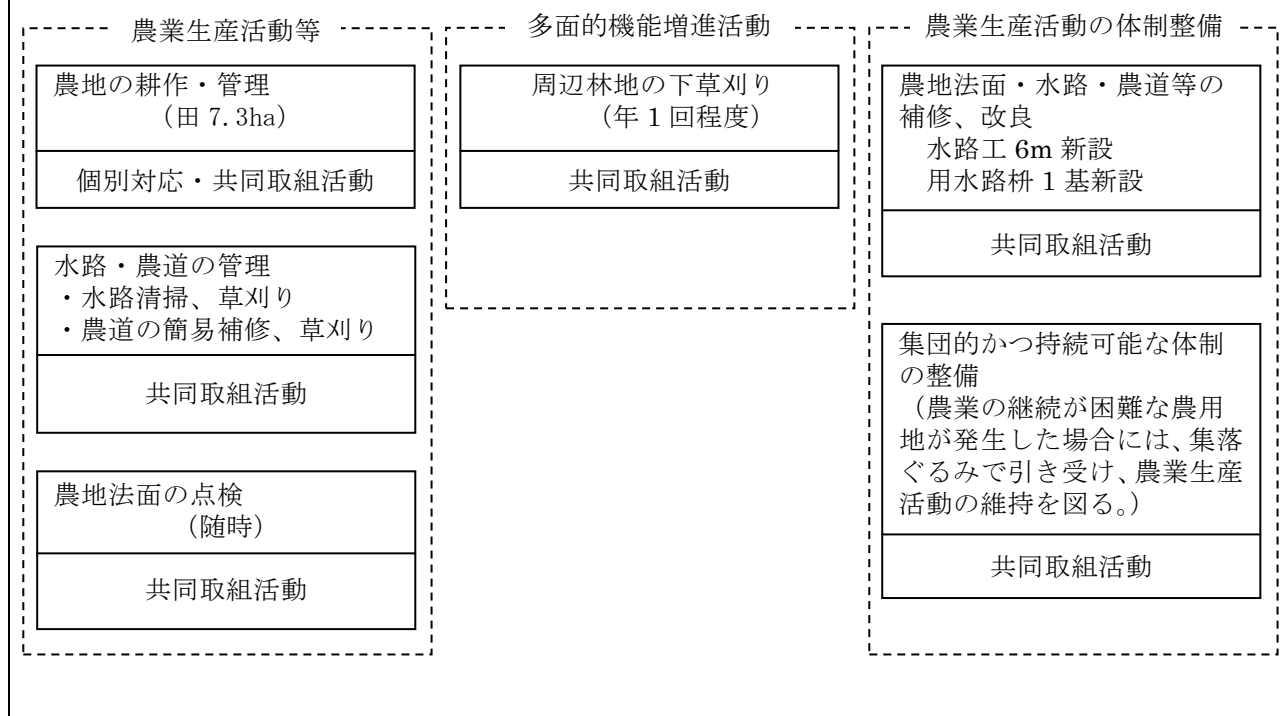
地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

○将来営農の継続が困難になる農用地が生じた場合には、協定参加者で支え合う体制を維持する。

[活 動 内 容]



4. 今後の課題等

本制度に継続して取り組むことにより、棚田を守っていく話し合いが行われるようになり、生産基盤の整備や棚田保全の組織育成がなされるとともに、ボランティアの方々や地元小学生などとの交流が増え、集落が活性化してきた。

今後も地元産米のブランド化などに取り組み、世界農業遺産の認定地域として将来のことを見据えた農業形態への移行や集落の活性化に本交付金を有効に活用していきたいと考えている。



【小池棚田米を販売】

[第2期対策の主な効果]

- 担い手への農作業委託
 - ・協定農用地の農作業委託 0.87ha
- 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携
 - ・非農家との連携 10名